



米国の相互関税のアフリカへの影響

日本貿易振興機構（ジェトロ）

アフリカ事務所

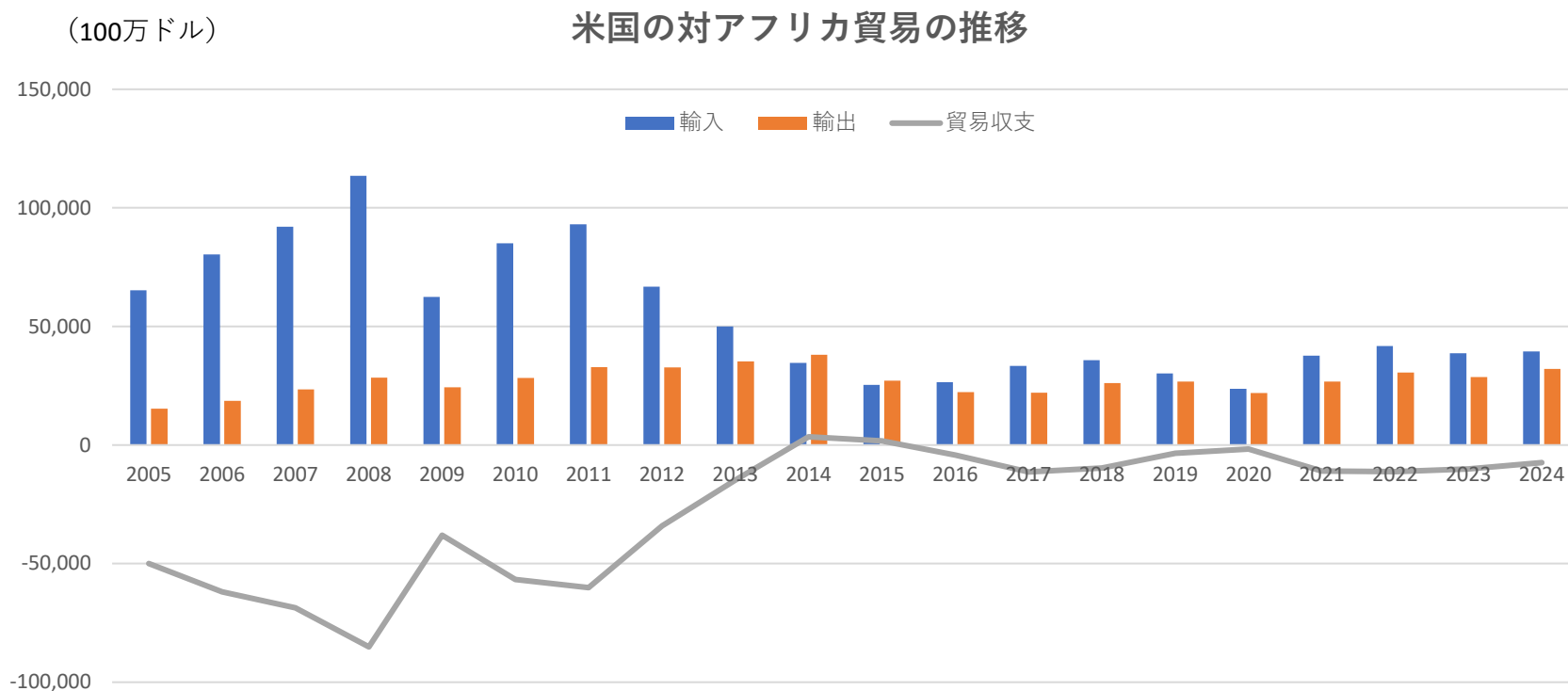
2025年4月10日



ガーナの青空市場

1 | 米国の対アフリカ貿易概況

- 2000年のアフリカ成長機会法（AGOA）を受けて、縫製産業などがアフリカに進出。2008年まではアフリカからの輸入が急激に増加したが、2007年以降、米国のシェール革命によるエネルギー自給率増加によりアフリカからの原油輸入が急激に減少。
- 過去10年間は米国の対アフリカ貿易額はほぼバランスしている状況にある。

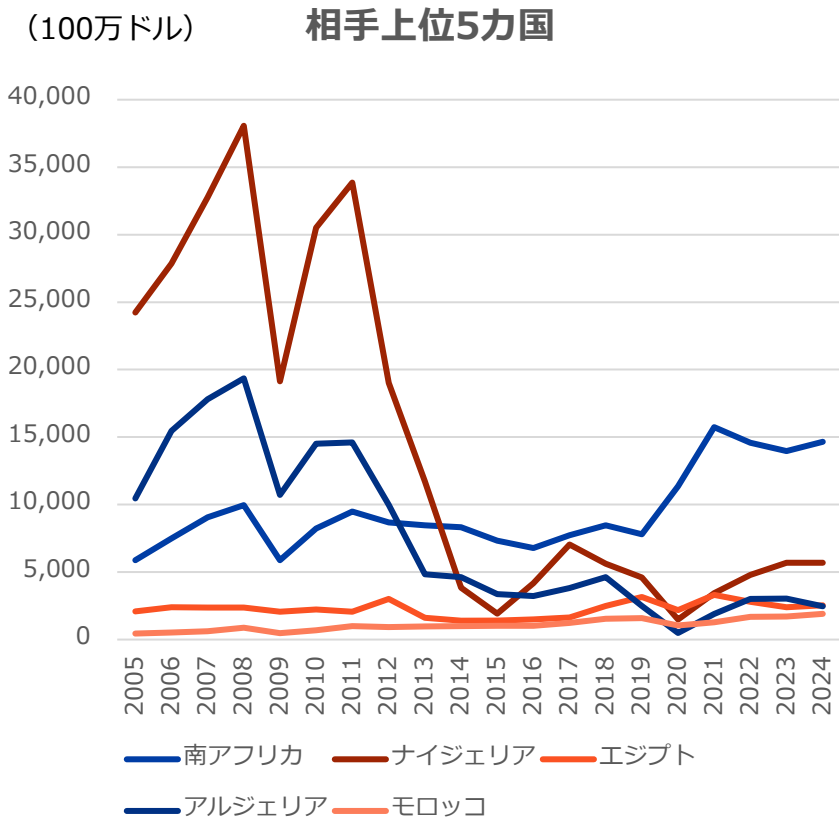


(出所) Global Trade Atlasよりジェトロ作成

2 | 米国のアフリカからの輸入概況

- シェール革命前は、ナイジェリアやアルジェリアなど産油・ガス国が多かったが、現在は南アフリカ、エジプト、モロッコなどが増加。
- 米国は南アフリカからの白金類や自動車、エジプト、ケニア、マダガスカル等からのAGOA措置を活用した衣類の輸入、カカオや果実・ナッツ類などの農産品を輸入。

米国の対アフリカ貿易（輸入）



米国の対アフリカ輸入上位10品目（100万ドル）

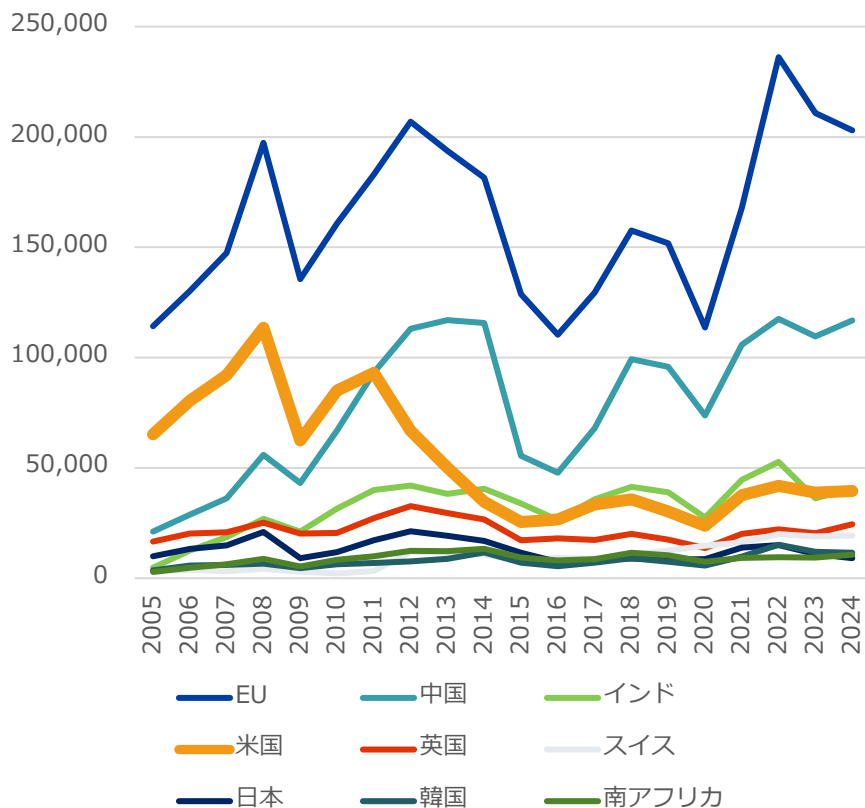
	輸入額 2024年	輸入総額に おける割合	主な相手国
鉱物性燃料	11,825	29.9%	ナイジェリア、リビア、 アルジェリア、アンゴラ
金属類	9,722	24.6%	南アフリカ、ボツワナ、 ナミビア、ザンビア
自動車	2,383	6.0%	南アフリカ、モロッコ
衣類（61類）	1,608	4.1%	エジプト、ケニア、 マダガスカル、レソト
衣類（62類）	1,318	3.3%	エジプト、ケニア、モ ロッコ、マダガスカル
カカオ	1,067	2.7%	コートジボワール、 ガーナ、カメルーン
肥料	772	2.0%	アルジェリア、エジプト、 ナイジェリア
電子機器	754	1.9%	モロッコ、チュニジア、 南アフリカ
鉄鋼	736	1.9%	南アフリカ、エジプト
果実・ナッツ	681	1.7%	南アフリカ、モロッコ、 エジプト、コートジ

3 | アフリカの貿易概況

- アフリカにとって米国（輸出総額の3.8%）はEU（19.6%）、中国（11.3%）、インド（4.0%）に次ぐ、第4の輸出相手国。過去20年間でEUが16.6→19.6%、中国が3.1→11.3%、インドが0.7→4.0%と増やしているのに対して、米国は9.5→3.8%に減少。
- しかしながら、主要国を見ると米国は輸出先としてEUに次ぐプレゼンス。品目によるが影響は少なからず。

アフリカの貿易相手国（輸出）

(100万ドル)



アフリカ主要国の主な輸出相手国

南ア	2005	2024	ケニア	2005	2024
中国	3.5%	14.5%	EU	18.0%	17.5%
EU	14.9%	10.3%	米国	7.9%	8.5%
米国	6.0%	6.9%	英国	9.2%	6.9%
インド	2.7%	5.1%	インド	1.1%	3.3%
英国	8.1%	5.1%	中国	0.4%	2.7%

ナイジェリア	2005	2024	エジプト	2005	2024
EU	7.4%	20.1%	EU	21.2%	26.1%
米国	17.9%	5.3%	米国	7.6%	4.9%
インド	0.05%	4.7%	英国	2.4%	3.4%
中国	0.4%	2.8%	スイス	0.1%	2.5%
インドネシア	0.7%	2.8%	インド	0.8%	2.1%

(出所) Global Trade Atlasよりジェトロ作成

4 | 相互関税のインパクト（1）

- 2025年9月に失効／延長の議論のあったアフリカ成長機会法（AGOA）が一瞬で吹き飛ぶ事態に。
- 最貧国のレソト、マダガスカルが最も高い関税率を付与される一方で、バイデン政権時代にAGOA除外国として人権問題等で制裁対象であった国々の多くが最も低い10%となる結果。

米国によるアフリカ諸国に対する相互関税率

30%以上（8カ国）	10～30%（12カ国）	10%（31カ国）	
レソト（50%） マダガスカル（47%） モーリシャス（40%） ボツワナ（37%） アンゴラ（32%） リビア（31%） 南アフリカ共和国（30%） アルジェリア（30%）	チュニジア（28%） コートジボワール（21%） ナミビア（21%） ジンバブエ（18%） ザンビア（17%） マラウィ（17%） モザンビーク（16%） ナイジェリア（14%） 赤道ギニア（13%） チャド（13%） コンゴ民（11%） カメルーン（11%）	エジプト（10%） ケニア（10%） ガーナ（10%） セネガル（10%） ガボン（10%） リベリア（10%） コンゴ共（10%） シエラレオネ（10%） スーダン（10%） ギニア（10%） カーボベルデ（10%） モーリタニア（10%） 中央アフリカ（10%） 南スーダン（10%） サントメプリンシペ（10%） ルワンダ（10%）	モロッコ（10%） エチオピア（10%） タンザニア（10%） ウガンダ（10%） トーゴ（10%） ベナン（10%） ジブチ（10%） エスワティニ（10%） ニジェール（10%） マリ（10%） ブルンジ（10%） ガンビア（10%） エリトリア（10%） コモロ（10%） ギニアビサウ（10%）

（出所）米政府発表よりジェトロ作成

（注1）赤字は制裁等によりなんらかの形でAGOA除外国となった国々。

（注2）ブルキナファソ、セーシェル、ソマリアは米政府発表資料に記載なし（但し、10%のベースタリフの対象と理解）。

（注3）セーシェルと赤道ギニアは途上国卒業のためAGOA除外（青字）。

5 | 相互関税のインパクト（2）

- 一部の鉄鋼・アルミニウム製品及び自動車・同部品、銅、医薬品、半導体、木材製品、地金、米国で入手できないエネルギー、特定鉱物などは、今回の関税措置の対象外。輸入額の67.5%が除外品目で、関税の影響を受けるのは32.5%にとどまる。（※除外品のHSコード2桁で貿易額を試算）
- 一方で、AGOAを活用してアフリカで生産される衣類の輸入は、主要国であるレソト、マダガスカル、モーリシャスの大幅な関税引き上げにより壊滅的なダメージが出る恐れ。また、カカオやコーヒー、茶といった農産品も影響あり。

アフリカ各国の反応

モロッコ：2006年に米国とFTA締結。農産品、テキスタイルに影響。2国間交渉を目指すとの報道。

ガーナ：アパレル、カカオ加工品などが影響を受けると評価。7日、パーマー駐ガーナ米大使がカカオ加工品が課税対象品目であることに驚き、ハイレベル交渉次第で免除の可能性あると発言。

ナイジェリア：対米輸出の9割は原油、鉱物性燃料だが、連邦政府は貿易関係を混乱させ、米国市場におけるナイジェリア製品の競争力に影響を与える可能性がある」と懸念を表明。

南アフリカ共和：白金や自動車など輸出。自工会は懸念を表明。外相・産業貿易大臣は4日、連名で2国間交渉や貿易多角化など包括的な交渉・解決を目指す声明を発表

エジプト：2024年に洋服12億ドルを米国に輸出。その他、肥料、鉄鋼、加工食品などを輸出。ヨルダン等他の中東諸国との比較において低率にとどまったとの評価。

エチオピア：2022年1月にAGOA除外、制裁下。東南アジア諸国の関税引き上げを受け、アパレル産業にとって「好機」と好意的な評価。

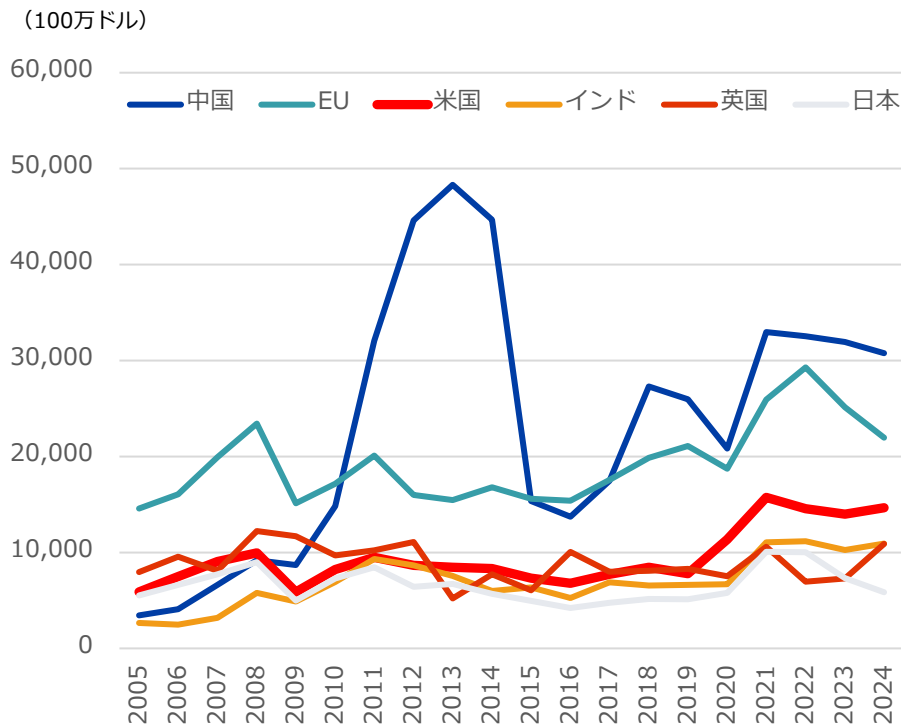
ケニア：テキスタイルと農産物を輸出。AGOAは5.8万人の雇用を創出。2国間交渉とAGOA延長に望みを託す。アパレル競合国との関税差を受けて好機と捉える声も。

レソト：AGOAを活用した米国向け縫製産業が集積。即座に工場閉鎖や失業につながることを懸念と貿易大臣が表明。

6 | 相互関税のインパクト（南アフリカ共和国）

- G20への米国不参加や南ア駐米大使の国外退去通告など、両国政府の関係は一層悪化。
- 米政府の相互関税発表の際に、南アについては名指しで批判。米国産豚肉製品や鶏肉について、南アの厳しい検疫等により輸入が制限されていることを批判。
- 南アの自工会は懸念を表明。南アの自動車産業にとって米国市場は3位の輸出先で2024年は約18億ドルを輸出しており、自動車産業に大きな影響があると発表。但し、南アから米国に輸出しているのはBMWとメルセデス・ベンツのみ。

南アフリカ共和国から主要国への輸出額の推移



(100万ドル) 南アフリカ共和国から米国への輸出額（品目別）

